

<第2次総合計画進行管理表> 施策評価表

1. 基本事項 作成日 令和6年6月231日（金）

施策		郷土の歴史・文化の継承と活用		期間	令和5年～令和9年	施策担当部課名	教育部 文化振興課
総合計画	大項目	2	次代を担う人と文化を育むまち	目的・対象			
	中項目	2	誰もが生きがいを持ち学ぶことのできるまちづくり				
	小項目	3	郷土の歴史・文化の継承と活用				
	主要プロジェクト						
重要度・満足度		文化・芸術に対する市民の重要度は低く、満足度は高い。		施策推進のための主な取組			市民が行う文化芸術活動の支援 深谷が誇る歴史や文化の保存・継承・活用 郷土にゆかりのある偉人や歴史を紹介する取組
施策を取り巻く社会状況等		地域固有の伝統や文化財については、急激な時代の流れの中で、その維持・継承が困難となっている。一方、文化財を観光資源として活用するなど、幅広い活用も進んでいる。また、市民が文化芸術に触れる機会や文化芸術活動への支援が求められている。					

2. 評価指標 上段は目標値（令和4年度は前期基本計画に基づく目標値、令和5年度以降は後期基本計画に基づく目標値）、下段は実績値

区分	指標名（上段）	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	算出式・説明（下段）							
成果指標	芸術鑑賞や文化活動を行う市民の割合	%	32.00	32.00	32.00	32.00	32.00	32.00
	深谷市民まちづくりアンケート		27.60	31.20				
	無形民俗文化財の後継者育成を行う団体の割合	%	96.00	92.00	92.00	92.00	92.00	92.00
	無形民俗文化財の後継者育成を行う団体数		92.00	92.00				

3. 一次評価（今後の施策の方向性）

区分	現状維持	1. 現状維持 2. 拡充 3. 縮小
文化振興については、多くの市民が文化芸術に触れる機会の提供を行うとともに、文化施設の適正な維持・管理に努める。無形民俗文化財の後継者育成を行う団体においては、コロナ禍及び少子高齢化の影響を受けながらも団体の維持・継承に努めた。また、旧煉瓦製造施設ホフマン輪窯6号窯の保存修理工事を進め、展示公開に向けた展示活用基本計画の策定をし、展示公開施設の整備に向けた検討を行った。引き続き、幡羅官衙遺跡や旧煉瓦製造施設等の文化財の保存・活用を推進していく必要がある		
		評価者 文化振興課長 吉岡 恵子

4. 改善改革プラン（3. 一次評価を受けての具体的な解決策）

区分		具体的な対応策等
<input checked="" type="checkbox"/>	既存事業の拡充	文化芸術活動について、市民が取り組む文化活動を支援することで満足感を高める事業を推進する必要がある。郷土の偉人に関する取り組みは、深谷市出身の畠山重忠の事績や人物像を引き続き顕彰し、その時代の地域史について広く周知するための事業の実施を検討する。文化財の保存・活用に対する重要性が高まっていることから、文化財の保護を充実させるとともに観光行政とも連携し、活用を図る取り組みを検討する。
<input type="checkbox"/>	事業の新規立案	
<input type="checkbox"/>	事業の廃止・縮小	
<input type="checkbox"/>	事務事業の再編	
<input type="checkbox"/>	その他	

5. 二次評価（所属長の見解）

渋沢栄一に続き、郷土の偉人・畠山重忠が大河ドラマで注目され、深谷市への注目も更に高まっている今、市内外に向け各種情報媒体を活用した情報発信により、郷土の偉人の功績を伝える事業展開を推進するとともに、市内の児童生徒向けに郷土の偉人を身近に感じられる学習機会の検討・充実を図っていく。幡羅官衙遺跡、旧煉瓦製造等の文化財を適切に保護するとともに、計画的な保存・活用を行い、深谷が誇る歴史や文化を継承する取り組みが重要であり、長期的な展望をもって推進していく。	
所属長	教育部長 松村 一